

国立国語研究所学術情報リポジトリ

概要

メタデータ	言語: Japanese 出版者: 公開日: 2019-11-29 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: メールアドレス: 所属:
URL	https://doi.org/10.15084/00002441

概要

1. 目的

本報告書は、国立国語研究所が2017年8月に愛知県一宮市木曽川町でおこなった調査の結果を報告するものである。本調査は、国立国語研究所における「日本の消滅危機言語・方言の記録とドキュメンテーションの作成」(機関拠点型基幹研究プロジェクト)および「方言の記録と継承による地域文化の再構築」(人間文化研究機構・広領域連携型基幹研究プロジェクト「日本列島における地域社会変貌・災害からの地域文化の再構築」)という2つのプロジェクトの共同研究として実施された。それぞれのプロジェクトの目的は以下のとおりである(国立国語研究所のホームページより)。

「日本の消滅危機言語・方言の記録とドキュメンテーションの作成」

いま、世界中のマイナー言語(規模の小さな言語)が消滅の危機に瀕しています。現在、6,000から7,000ある世界の言語のうち、半数がこの100年のうちに確実に消滅し、最悪の場合、10分の1、20分の1にまで減ると言われています。その背景には、人口の都市集中化により周辺地域の人口が減少してしまったこと、社会的・経済的理由によりマイナー言語を使っていた人々がその言語の使用をやめてしまったこと、災害や紛争により人々が生まれた土地を離れなければならないことなどの状況があります。

マイナー言語の消滅に関しては、次のような意見もあります。言語の消滅は社会変化の結果であってしかたがない。あるいはもっと積極的に、言語は統一された方が便利だ。危機言語を守る必要はない。

しかし、そもそも、なぜ、言語が多様になったのか考えてみて下さい。おそらく、各地の言語は地域の自然や人々の生活、ものの考え方などに基づいて、長い時間をかけて形成されていったのだと思われます。それらが消滅するということは、長い歴史の中で醸成された人類の智慧が失われてしまうことを意味します。生物の多様性が地球を豊かにしているのと同じように、言語の多様性は人類を豊かにしているのです。

このような状況に警鐘を鳴らしたのが、2009年のユネスコの「消滅危機言語」の発表です。2,500の消滅危機言語のリストの中には、日本で話されている8つの言語—アイヌ語、八丈語、奄美語、国頭語、沖縄語、宮古語、八重山語、与那国語—が含まれています。しかし、消滅が危惧されるのはこれだけではありません。日本各地の伝統的な方言もまた、消滅の危機にあります。これ

らを記録し、その価値を訴え、継承活動を支援することがこのプロジェクトの目的です。

「方言の記録と継承による地域文化の再構築」

地域社会の変貌により、地域の貴重な文化資源である方言が急速に衰退しつつある。本研究では、自治体や各地の大学・研究者と連携して地域の方言の記録や方言の継承活動を行うことにより、方言を主軸とする地域文化の再構築の可能性と方言のもつ文化的意義について研究を行う。

国立国語研究所では、2010 年から奄美沖縄地方、八丈島、出雲、宮崎県椎葉、島根県隠岐の島、石川県白峰などで合同調査をおこなってきた。今回の木曽川調査は東海地方における初の合同調査である。

2. 調査地点について

本調査は愛知県一宮市木曽川町でおこなわれた。木曽川町は、愛知県の北西端、岐阜県との県境に位置する（位置については地図 1・2 も参照）。西には町名の由来にもなった木曽川が流れている。2018 年 4 月現在の人口は 34,328 名である（一宮市ホームページ¹より）。

現在の木曽川町は、一宮市の地域のひとつであるが、平成 17 年（西暦 2005 年）に一宮市に編入されるまでは独立した地方自治体だった。その始まりは、明治 34 年（西暦 1906 年）、旧黒田町（曾根村を除く）・玉ノ井村・里小牧村が合併して生まれた黒田町に遡る。それから 4 年後の明治 43 年（西暦 1910 年）、「木曽川町」に町名が変更された。なお、旧木曽川町は、東西約 4 km（玉ノ井～門間）、南北約 3 km（玉ノ井～里小牧）のほぼ長方形の地域で、面積は 9.05 km² である。

門間遺跡の遺物などから、木曽川町域に人々が住み始めたのは、弥生時代から古墳時代前期にかけての頃だったと推察される。古くから、木曽川の堆積作用によって形成された肥沃な土地が人々に恩恵をもたらしてきた一方で、度重なる木曽川の氾濫に人々は悩まされ続けてきたことが窺える。

¹ http://www.city.ichinomiya.aichi.jp/_res/projects/default_project/_page_/001/002/869/30.pdf（閲覧日：2018/10/31）



地図1 愛知県一宮市木曽川町の位置（日本全図）



地図2 木曽川町の位置（愛知県）

3. 調査について

調査は2017年8月28日（月）と29日（火）に木曽川商工会館および木曽川資料館でおこなわれた。調査内容は以下のとおりである。

調査内容： 文法項目

- 数・代名詞
- 指示詞・疑問詞
- アスペクト・テンス
- ヴォイス
- 文タイプ
- 待遇
- 形容表現・名詞述語

基礎語彙

用言の活用

以下の方々が我々に方言を教えてくださいました。年齢は調査当時である。なお、ここにお名前を掲載していない方々からも方言を教えてくださいました。みなさまに深くお礼申し上げます。

川井達朗さん（1950年生，67歳）

光崎邦雄さん（1940年生，76歳）

丹下豊子さん（1961年生，56歳）

寺西洋二さん（1933年生，83歳）

丹羽桃慶さん（1938年生，79歳）

野村光司さん（1943年生，74歳）

安田知里さん（1972年生，45歳）

山口昭雄さん（1942年生，74歳）

調査者は以下のとおりである。所属は調査当時のものである。

青井隼人（東京外国語大学アジアアフリカ言語文化研究所）

大槻知世（国立国語研究所），木部暢子（国立国語研究所）

久保蘭愛（愛知県立大学），中西太郎（目白大学），原田走一郎（国立国語研究所）

平子達也（駒澤大学）山口響史（名古屋大学）

また以下に挙げる学生が公募により集められ、調査に参加した。

石田晴香，伊藤有里，下廣日向，西尾真優，待田奈美，前田美紀，都築舞音
服部和佳子，満永璃久（以上，愛知県立大学学生）
小林ゆかり，陶天龍，高城隆一（以上，東京外国語大学）
カルリノ・サルバトーレ（一橋大学）

参考文献

(1981)『木曽川町史』，木曽川町．

謝辞

調査にご協力くださいました方々に心よりお礼申し上げます。とくに元木曽川町長の山口昭雄さんには調査の調整でお世話になっただけでなく，事前研修では学生たちの前で貴重な話を聞かせてくださいました。ありがとうございました。